

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News

10

No.820 2022

2022年10月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜

YMCA



OPINION

弱さの向こうにあるもの

—全国YMCA発達支援事業部担当者会 基調講演より—

同志社大学教授 木原 活信

私の親戚に「ひろき君」という、重度の知的障がいのある自閉症者がいます。限られた言葉しか発しませんが、私のことは「ひー」と呼びます。髭の「ひー」です。先日、パンの美味しいレストランに一緒に行った数日後、私を見て「パン、パン」と言って笑ってくれました。通訳すれば、「先日はごちそうさまでした」となるでしょうが、私にはそんな社交辞令よりもずっと嬉しい感謝の言葉でした。ひろき君が生まれて以来、私はこういう幸せな瞬間をたくさん経験してきました。

さて、神奈川県相模原市の障がい者施設「津久井やまゆり園」で入所者など46人が殺傷された事件から今夏で6年になりました。「障がい者はいなくなればいい」「ヒトラーが降りてきた」という犯行動機は世間を震撼させましたが、さらに恐ろしいのは、一部のSNS上に共感の声があったことです。生産性のない者を無用とみなす「優生思想」は、ナチス以前からあったものですが、私はひろき君を無用だと思ったことは一度もありません。

YMCAが基盤としているキリスト教では、人は存在そのものに価値があると考えています。人の価値は、何をしたか、何ができるのかによって変わるものではない。doing（～すること）ではなく、being（あること）。存在自体に価値がある。私は大学で教えていますので、学生の単位を落とすことはありますが、その学生に価値がないわけではありません。能力や行為によらず、存在していることに価値がある。それは、赤ん坊が何もしないからといって無意味な存在と言われたいのと同じです。一人一人に尊厳があるということです。

私の勤める同志社大学のキャンパスの壁には、創設者である新島襄が語った「諸君ヨ、人一人八大切ナリ」という言葉が刻まれています。これは1885年（明治18年）、創立10周年の記念式典の壇上で語られた言葉です。アメリカから帰国したばかりの新島は、自分の出張中に不始末を起こして退学処分になった学生がいたと知り、「今日みなさんは10周年を祝っているが、彼は参加できなかった。私の心は涙です」と泣きだし、「人一人は大切なり」と語りました。富国強兵の時代にこんな話をしたのは驚きですが、牧師でもあった新島の脳裏には、聖書の「羊飼いのたとえ話」があったと思われます。

「百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか」（ルカによる福音書15章4節）。多数派ではない一匹。群れから外れてしまった一匹。それは弱く生産性のない一匹かもしれませんが、そこに目を向けて、共に泣き共に喜ぶのがキリスト教の精神です。

「日本YMCA基本原則」には、「YMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ…（中略）…すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます」と書かれています。どうかこの素晴らしい理念を徹底して、この迷いの多い社会をリードして欲しいと思います。（まとめ 編集部）

木原 活信 きはら かつのぶ
同志社大学教授。博士（社会福祉学）。学校法人同志社理事、評議員。専門は、福祉思想史・福祉哲学、ソーシャルワーク論。日本社会福祉学会会長歴任。日本キリスト教社会福祉学会会長。著書に、『「弱さ」の向こうにあるもの』（いのちのことば社、2015）、『社会福祉と人権』（ミネルヴァ書房、2014）ほか多数。NHKこころの時代、ラジオ深夜便など出演。

2022年度世界YMCA/YWCA合同祈祷週

2022年11月13日（日）～19日（土）

世界YMCA・YWCAは11月第2週の日曜日から1週間を合同祈祷週とし、毎年1つのテーマを決めて聖書からのメッセージを学び、祈りを共にするとともに定めています。

今年のテーマはIGNITE（点火）。暗いニュースが多い社会の中に火を灯すことができるよう、心を合わせて祈ります。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

発達に課題がある子どもたちのキャンプ3年ぶりに開催

埼玉YMCA「Big Smile Camp」

新型コロナによる行動制限が解除されたことを受け、全国のYMCAではキャンプやスポーツ大会など、対面での活動を徐々に再開しています。文科省からも「子供の体験活動推進宣言」が出され、YMCAをはじめ約200の民間団体が賛同して取り組みが進められています。

3年ぶりに特別支援キャンプを実施した埼玉YMCAの様子をききました。

埼玉YMCAでは8月20日～21日、発達に課題がある子どもたちを対象とした「Big Smile Camp」を開催。小学生から23歳まで17人が参加しました。感染拡大の中での開催には心配もありましたが、保護者からも「3年間ずっと体験の機会がない」など活動を望む声が寄せられ、開催に踏み切りました。

久しぶりのキャンプでは、ビッグカヌーやポイントハイクなどでたくさん笑顔が見られた一方で、さまざまな個性がぶつかり合う場面もありました。皆を待てずにご飯を食べ始める子や、感覚が敏感でマスクが苦手な子、そしてそれを見過ごせずに注意する子。そのたびに互いにぶつかり合って感情的になったり、自制が難しくなったりすることもありましたが、年長キャンパーが上手になだめたり、的確にフォローするリーダーの対応で共同生活の輪が保たれ、最後には「楽しかったね」と大満足の表情で帰路につきました。



発達に課題がある子どもたちは、その多様性ゆえに学校生活にうまく馴染めずストレスを抱える傾向があります。だからこそ大自然の中で気持ちを解放し、仲間やリーダーとのびのびと過ごすキャンプ生活は貴重な機会です。子どもたちがたくさんの体験を積みながら自分の世界を広げ、成長して欲しい。このキャンプに込めた願いを改めて実感した2日間でした。

埼玉YMCA 石黒 成華

第22回 日本YMCA大会のご案内

2年に一度、全国のYMCA関係者が集う日本YMCA大会。第22回となる今年は、YMCA東山荘を会場に対面形式で開催の予定です。各地で活躍する仲間と出会い、自らのYMCAを見つめなおし、「みつかる。つながる。よくなっていく。」を体感する3日間です。ぜひご予定ください。



- 日時／2022年11月25日(金)午後3時～27日(日)午後1時
- 会場／日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘(御殿場市)
- 対象／YMCAに関わるすべての方

詳細はホームページで

<https://www.ymcajapan.org/assembly/>



一般財団法人日本宝くじ協会から助成金

一般財団法人日本宝くじ協会より助成金の交付を受けて、集会用テント37張、宿泊用テント20張を購入いたしました。このテントは、全国20のYMCA*に贈られ、地域のイベントや青少年の野外活動、また災害時の支援活動等に用いられます。



神戸YMCA「ふれあい運動会」

*全国20のYMCAとは、仙台、ぐんま、とちぎ、茨城、東京、横浜、山梨、静岡、名古屋、滋賀、京都、奈良、大阪、和歌山、神戸、せとうち、広島、福岡、熊本、YMCA東山荘です。

ウクライナから日本へ YMCAネットワークで避難をサポート



戦況の見通しがたかない中、YMCAは各地で避難者の支援を継続しています。日本YMCA同盟は、ヨーロッパYMCA同盟・ウクライナYMCAと連携して日本への避難をサポートしており、その数は8月25日までに70組154人、来日後に関わった方も含め557人に支援を提供しています。



>>> 避難者のニーズ調査

7月に開始した東京都との協働プロジェクト「ポर्टヌイク東京」では、避難者宅を戸別訪問してニーズを聞き取り、行政等の支援策につなげています。戦況の長期化に伴って心身に不調をきたす方も出ており、今後はさらにきめ細やかな支援が必要となっています。



>>> 絵本プロジェクト

日本に避難してきた親子に心安らく時間を過ごしてもらいたいと、「Ukraine Café HIMAWARI」(新宿区四谷)で図書の翻訳と貸し出しを始めました。『ぐりとぐら』など日本の絵本にウクライナ語訳を添えた翻訳本のほか、ウクライナの絵本も取り寄せ、各地の支援団体にも配送しています。



>>> 野球観戦を共に楽しむ

横浜YMCAでは8月26日に横浜DeNAベイスターズの協力によりウクライナの人びと45人を招待し、支援募金に協力した方々とともに野球観戦を楽しみました。多くのウクライナ人は初めての野球観戦でしたが市国際交流協会がオンライン野球講座を開催するなど企業・団体が協働し支援に取り組んでいます。

*YMCAの支援活動は皆さまのご寄附によって行われています。引き続き、ご協力をお願いします。

ポジティブネットYMCA国際協力募金

世界120の国と地域にあるYMCAは、ウクライナ避難者支援のほか、貧困で苦しむ人への支援、子どもの教育支援、戦争や紛争で傷ついた人のケアなど各地の社会課題に取り組んでおり、世界のネットワークでそれを支えあっています。YMCAが目指している、かけがえのない、一人ひとりのいのちが大切にされる「ポジティブネット」のある豊かな社会の創造のために、募金へのご協力をお願いいたします。



東エルサレムYMCA

難民を対象に、自動車整備やICTの職業訓練を行っているほか、子どもたちの教育支援も行っています。



カンボジアYMCA

スラム街の子どもたちに学習機会の提供をすとも、母子家庭の生活支援などを行っています。

募金はお近くのYMCAもしくは下記からお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替口座(振替貯金)
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
- クレジットカード・銀行振込は下記サイトから
<https://srv.asp-bridge.net/ymca/privacy/4>

